

## 年間第 2 6 主日の説教

金 大烈 神父 2009 年 9 月 27 日 (日)

《私たちにとって当たり前のことをすることで、神様を知らせることができます》

おはようございます。

今日は 10 年位前に私にあった二つの話を紹介させていただきます。

その時、私は韓国のある小教区にいました。ある日の夕方、教会の中庭でロザリオの祈りをしながら散歩している時、影になった所に 30 代の後半から 40 代位の見知らぬ男性が座っているのに気がつきました。休みに来ているのだらうと思って、そのままロザリオをしながら歩いていました。ロザリオが終わって十字を切る私の姿を見たその男性は、あせっている感じで私の所に近寄って来ました。「神父様ですか?」「はい、そうですけれど?」「申し訳ありませんが赦しの秘蹟を受けられるでしょうか?」「もちろんです。」そして聖堂に案内しました。長い告解があり、「これから一生懸命頑張ってください。」と言って別れました。そして、3 日後に一通の手紙が届きました。

その内容は、「三日前に神父様から告解を受けた者ですが、その動機について申し訳けなかったので手紙を書きました。自分は幼児洗礼を受けて侍者も一生懸命やって高校まで信仰生活をやっていました。高校を卒業して仕事を得て結婚もしましたが、それからは教会に行くのが面倒になり、月に 1 回、1 年に 1 回、何年かに 1 回というようになり、その後、てんで教会に行かなくなり、20 数年が経ちました。ところで、赦しの秘蹟を受けた三日前の日の夕方、仕事が終わって仲間と食堂に入りました。食事をする間に、ある 30 代の男性が前のテーブルに座り、その人が周りの人にも聞こえる位の声で十字を切ったのを見ました。『あなたの恵みによって頂くこの食事を感謝して頂きます。父と子と聖霊の御名によってアーメン』食堂にいた他の人の目にも留まりました。そのとたんにごく強い心の働きが自分に起こりました。“自分もカトリック信者ではないのか? 今、私は何をしているのか? あの人が私を悔い改めさせているのではないのか?” いろんな思いで凄く悲しくなりました。幼児洗礼を受けて、親から信仰の教育もしてもらいました。それなのに今まで言い訳をしながら信仰生活をしてこなかったことが、その人の十字を切る姿によって、思い出し苦しくなりました。そしてなんとかしようと思ってその夜、一番近くにある教会を探して来たのが神父様がいる教会でした。それが告解の日です。」大体このようなものでした。

“十字を切る” 簡単なことですよ。「父と子と聖霊の御名によってアーメン」食事の前にするこの簡単なことによって心打たれる人が必ずいます。皆様いつも自信を持って下さい。神様を恥と思わないで下さい。カトリック信者であることに誇りを持ってください。どこにいても自分の信仰に自信を持って“十字を切る” その姿が欲しいです。これこそ福音を述べ伝える一番基本的な姿勢だと思います。

もう一つの話を紹介させていただきます。

ある婦人からも手紙をもらいました。彼女のことは全然覚えがありません。手紙の中にも名前は書かれていません。昨夜その手紙を日本語に訳してみました。

「長い間信者生活から離れ、主日の御ミサに与ったのが何年前だったかもわかりません。生きることの重さで諦めたい時もたくさんありましたが、幼いとき受けた洗礼の力のためでしょうか、主の周りをぐるぐる回ってきた気がします。久しぶりに聖堂に入ってそこに腹ばいになって主に祈りました。

もう一度祈れるようにと。神父様がおっしゃいました。『殉教の一番は自分の中に湧き上がる怒りを治めることです。二番目は絶え間ない祈りです。三番目は福音を述べ伝えることです』と。愚かな私の頭にもよく入る言葉でした。私は涙を流しながら主に祈りました。『これから主だけを見ながら生きます。どんな困難の中でもイエス様だけを見ながら生きていきます』と。神父様の情熱的なお姿が氷のように冷たかった私の心を溶かして下さったように、私も自分の暮らしの中で、さまよう人々のために少しでも力になっていきたいです。指差されない信者の姿を保とうと頑張ります。ミサが終わって外に出たら、金神父様が待っていらっしゃいました。温かい笑顔を忘れられません。私は気を失う位でした。先に手を伸ばして握手を求めて下さったことも忘れられません。私の顔は真っ赤になってしまいました。自分が持っていた難しさが突然軽くなった感じでした。神父様、お気持ちが悪くならなかったですか？ 醜い田舎のおばさんが神父様の手に触れたことお赦し下さい。いつもお身体をお大事にお願いします。そして私のような彷徨う<sup>さまよ</sup>う靈魂を導いて下さい。お祈りを捧げながら。」

この手紙を聞かれた皆様の感想はどうですか？ 私は当たり前ミサが終わって外に出て握手を求めます。ただ自分の身についた簡単なことを見せた事によって、相手はすごく大きい変化を体験することが出来るのを考えて頂きたいのです。皆様が投げる目つき、目の光、答える「いいよ」という言葉と「それはいいですね。」という言葉では全然違う影響を相手に与えるということです。ということは私たちが本当に細かいことさえ自分のためでなく相手のためにするなら、私の振る舞いによって、その人が神様に戻ってくるかもしれないという意識が必要ではないかと思います。

私が皆様に言おうとしていることは「私たちは恵まれている」ということです。ミサに与って御聖体を頂くこと自体が大きな恵みです。与りたくても与れない人々がたくさんいます。忘れてしまった人もたくさんいます。皆様、感謝しましょう。

夕べのミサで冗談で申し上げたんですが、ある他所の人がこの教会を訪れた時、ある方が「うちの金神父様は優しく見えますが、信仰的にはものすごく厳しいですよ。」と言っているのが聞こえました。このように言った方が結構いらっしゃるでしょう。

しかし皆様、何が厳しいんですか？「神様を愛しましょう」「人と分かち合いましょう」「ミサの時間を守りましょう」「罪があったら赦しの秘蹟を受けて、清められた心でイエス様を頂きましょう」これが厳しいですか？ 逆に甘いじゃないですか。私は厳しいという言葉聞いて、他の司牧者はどの位甘いのかと疑問を持ちました。当たり前のことを言って厳しいと言われるって。教会を離れている家族のため、知り合いの友のため祈りましょうということが厳しいことでしょうか。聖堂に入ったらイエス様に挨拶して静かにミサに与りましょうと言うのが無理なことでしょうか？ そうは思いません。私を納得させることができるなら納得させて下さい。(笑い) これからは金神父は厳しいとは言わないで下さい。優しくて神父らしく一生懸命に生きていますと言って下さい。(笑い)

最後に今日の福音に入ってみましょう。今日の福音(マルコ 9・38-43、45、47-48)の後半は厳しいですね。例えば“片手が悪いことをしたら切り捨てなさい。片方の目がつまらずかせるならえぐり出さなさい”と。カトリック信者なら、洗礼を受けて1年位たった信者なら聞いたことのある箇所でしょう。人によってこの言葉を深刻に受け止めて心動かす人もいるし、「いつも聞いている話だ。厳しいな」と流してしまう人もいます。

皆様をお願いします。実感しようとする心を持って聖書に接して下さい。占いのように「今日は何かな？」と聖書を開いて「これは私のためのみ言葉だな。」というのは子供たちのすることです。聖書を読むときはその中に入って、その時代に自分を置いて状況を描きながら私ならどういう気持ちにな

るかと思って読んで下さい。今ここにイエス様は立っているとしましょう。今「お前、片手を切りなさい。」と言われたらどうですか？それが実感です。実際に感じられるような気持ち、その気持ちを言葉にして触れ合おうとしなければ言葉は流れてしまう。

今日、最後にイエス様がこのように厳しく言われたことは本当です。「実際、いつかあなた方は罪から離れる決断がなければ、私が手を伸ばしても届けない」というイエス様の警告です。信仰の生活をもう一回振り返ってみましょう。神様に感謝しながら自分の人生を福音的に楽しんでいるのかよく考えましょう。

ありがとうございました。